

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391400068		
法人名	社会福祉法人 順和会		
事業所名	グループホーム ひのおか由紀の里 杵島岳ユニット		
所在地	熊本県阿蘇市赤水無田ノ上1894番地1		
自己評価作成日	令和5年12月26日	評価結果市町村受理日	令和6年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年1月11日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然が豊かな立地にあり、山や田畑の様子が眺められ四季を感じることができる環境です。感染予防にて十分な地域交流ができない中、ホーム内での季節行事、日々の生活の充実を通し楽しみのある生活、本人の出来る力を活かした支援の提供を行っております。入居された方が重度化しても、慣れ親しんだ地域の中で最期まで安心して暮らすことができるよう看取り介護も行っております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阿蘇の山々が自然治癒につながるような環境の中、重度化傾向や、認知症状やADL等の差がある中でも入居同士の労いのある生活や、密にならないよう工夫した地域への外出、近隣住民からの優しい支援(手作り作品の提供等)や世代間を超えた交流(保育園児や子ども神輿の来訪、地域の子も達からの年賀状等)にこの地にあるべきホームであることが表出している。職員同士の意思疎通の良さや研修等に志向の高さが表われ、入居者の“したい”に向けた取り組みは伸びやかな生活となり、寝たきり状態の入居者にはその方のに特化したマニュアルを作成して最終章に寄り添い、コロナ禍のなかで環境整備・予防を徹底している。職員の持つスキルや得意分野を発揮し、少しでも楽しんでもらいたいとする職員の心意気が、学生服での写真撮影や、“由紀の里カフェ”等に表われている。認知症伴走型支援事業を受託しており、認知症ケア推進に寄与されること大いに期待されるホームである。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビング内に理念を掲示し、生活支援の指針とし実践に繋げている。ケアの中で迷った時の羅針盤としている。	“ぬくもりと安心の里”を大前提にした理念は、勉強会の中で見直しを検討し、職員の合意のもと継続している。日々の生活に直結させるべくケアの原点として捉え、年齢的な差やADL・認知的な違いや感染症の中でのケアに職員はスクラムを組んで支援し、“らしい”暮らしへ注視した日常や、入居者同士も労いながらの生活ぶりに理念の具体化として表われている。また、“由紀の里だより”が地域や家族への啓発及び情報発信源としていられる等地域とともにあるホームが形成されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設以来、毎年恒例となっている地域行事などもあり、新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら継続し地域の方々との関係づくりに努めている。	地域につながりながらの生活継続に向けたこれまでの活動が息づき、住民からの手作り作品の提供(テーブルクロスや膝掛け等)や、子ども達との交流(子ども神輿の来訪、保育園児からの七夕飾りを頂く等)、地区の子ども達からの年賀状や、年末には火の用心として子ども達が回ってくる等この地ならではの交流が行われている。ホームも側溝掃除への参加等地域の一員として活動している。	これまで築き上げていた地域の中での生活は充実しているが、コロナ禍で入居者が地域住民と交流することは困難な状況にあったと推察される。感染状況を見ながら外に出る機会があると更に入居者の生活が活性化すると思われ、検討いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の資料や広報誌により取り組みや活動、役割についての説明を行うことや、実習生の受け入れ体制を整えている。令和5年8月より、認知症伴走型支援事業を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症の県内のリスクレベルを考慮しながら運営推進会議を開催している。事業所としての現況や活動報告を中心に意見交換を行っている。	運営推進会議では情報発信の場のみならず、参加者からの意見により事故・ヒヤリハット事例を報告しながらの意見交換や、この地域にはAEDの設置が無く、ホームにあるAEDを周知したいとする地域代表者からの意向により、運営推進会議の中でAEDの勉強会を動画で開示する等双方向の充実した運営推進会議である。	書面開催時には資料を郵送し、意見書の提出をお願いする等運営推進会議を生かしたいとする高い意識で臨まれている。議事録の開示方法を検討いただき訪問される家族等にも開示されることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者に関する各制度担当者への相談、連携などを通して情報交換や連携が図れるように心掛けている。	運営推進会議を通じた情報発信の他、介護認定更新等を代行し、訪問調査時に立ち会い正しい情報を提供したり、入居者の祝い事の行政とのやり取り、認知症伴走型支援事業を受託し会議への参加や住民からの相談に応じ、受診の可否の見極めや地域包括支援センターと連携を図る等協力関係を築いている。また、生活保護等入居者に関わる関係部署と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に行動指針として明記し掲示している。勉強会を通して理解を深め身体拘束をしないケアの実践に努めている。	身体拘束は行わないホームであることと明確に示すホームでは、入居者の生活は自由でのびやかである。身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催し、不適正なケアを無くす事を課題として周知徹底している。報道による事例検討や、馴れ馴れしい言葉や命令口調にならないこと、入居者の拒否には無理強いしない等基本的なことを話し合い、足元センサー等の利用にはプランに組み入れ、家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待となる行為を行動指針に明記し事業所内に掲示し周知徹底している。勉強会も行い理解を深め、法令で定めることだけではなく、不快に感じる言葉かけや態度などもないように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が生活していく上で、必要性に応じて家族と話し合い、安心し生活できるよう支援している。成年後見制度利用者が3名おられ日頃の状況などについて、随時、報告、相談など行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に資料を用いて事業所について事前説明を行い理解し納得していただけた上で契約に至っている。契約後も随時相談は受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各担当を配置することで利用者や家族などの意見や要望を細かく把握し、他の職員へ申し送りを行い周知し対応している。計画書見直しの際には、意見や要望を自由に表せる機会として反映させている。	家族が室内へ入ることができない状況に（感染症予防対策）、職員が入居者の要望等を聞き取りし、職員及び家族と共有し対応している。感染症の状況次第では直接の面会には時間を決め、窓越しで室内の確認や、ラインでの情報発信等により家族の不安軽減としている。また、プラン作成に向け、アンケートにより改善して欲しい点や気になる事等を聞き取りし、サービスに反映させている。	感染症の状況次第では“かたろう会”の再開に向けて検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	些細なことも意見や提案を前もってつづり、月1回の会議時に話し合いを行っている。職員の意見や提案を受け入れ、まずはやってみることを基本とし、職員の意欲を高められるよう努めている。	毎月の会議にはまず検討したい内容を職員が具体的に記入して会議に臨んでおり効率的なケアに向けた意見や担当する入居者の問題点等を話し合っている。また業務内容についての改善案や意見等のノートを活用し、職員のケアへの悩み等を検討する体制としている。所長は職員から個人的な相談に随時対応し、勤務時間帯の調整や希望休等に柔軟に対応する等風通しの良い関係が働きやすさや定着となり、職員の得意分野が随所に発揮（住環境等）されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の経験や能力、得意な分野を活かし担当として役割を持つことで仕事への意欲向上にも繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	互いに声を掛け合い、知識や経験をもとに、意見交換など行っている。事業所内でも研修会や勉強会を実施し、知識を得ることでスキルアップやケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に地区の連絡会の研修会やオンラインにて法人内の会議に参加、意見交換を行い連携を図っている。法人内の他部署とは日常的に連絡をとり相談やアドバイスをすることもあり協力関係を築いている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族と面談し、心身の状態や要望などを聞き把握することで安心して入居していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族から不安や要望など、本人から得られない情報を十分に聞くと共に、事業所の見学や役割について説明、まずは知っていただくことで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や入居待ちの方々の支援として、現在の状態やサービス利用状況などから必要とされるサービスを見極め、説明やアドバイスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、個々のできる力が発揮できるよう支援している。家事仕事など役割分担し職員と協力して行っている。人生の上では先輩であり、アドバイスや助言をいただくこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止にて、面会の制限などあるため、普段から何かあれば相談や連絡し情報を共有することで共に支える関係づくりに努めている。本人とご家族の絆を大事にすることを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止対策をとりながら地域の行事であるどんどやに毎年参加している。入居後も、昔からの友人や知人関係の方もおられ関係性を大事にしている。時には知人の面会もある。	神社参拝や自宅の様子確認に出かける等、感染症予防対策として人混みを避けながら出かけている。山登りを趣味とした入居者にとっては、阿蘇の山々を望める環境である事やユーチューブを活用しながら馴染みの関係性を継続させている。また、高齢である姉妹に合わせたいとする家族の希望に応え職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関りは大事にしており、利用者からの要望や性格、相性なども考慮しながら支えあえる関係が構築できるように支援している。ユニット間を自由に行き来し交流もされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所や医療機関への転居及び入院になっても新たな環境での生活が円滑に行えるように、その方の情報を共有することで連携し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書作成時には、必ず本人の意向など確認し、日常生活の中での些細なひと言も暮らしへ反映できるように努めている。	日々の生活の中で入居者が話しやすいように心がけ、気軽に言える環境を作っている。また、答え易いように開かれた会話とし、表情や言動、笑顔をバロメーターとして捉えている。入居者の“〇〇をしたい 食べたい 山に登りたい”等の希望に家族に代弁し実現させる等プラン作りに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入居以前に利用していたサービス事業所や医療機関からの情報をふまえて、これまでの暮らしを把握し、入居前の暮らしが継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報をふまえて、ケース記録、各種日誌などを活用し情報を共有化することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意見、意向を伺い、計画書に反映させている。また、ケア会議において、担当職員、計画作成担当者、その他の職員と原案をもとに意見交換し作成している。	家族との情報交換や、入居者の意見等を取り入れ共に支える関係作りを行い、毎月のケア会議や、半年毎のアセスメント時には入居者の状態等担当職員の気づきや本人・家族の希望・生活に関する意向等を改めて聞き取りし、現状に即したプランを作成している。退院に向けてアセスメントから取り直した新たなプラン、看取り期の計画書等個別的なプランは、入居者の希望を随所に組み入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画書にもとづいて、日々の様子、支援経過などを個別に記録し情報を共有することで計画書の見直しに活かしている。又、ケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各制度の申請や手続き、後見人との連携など行っている。要望に応じた個別での外出支援なども行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止対策をとりながら地元の保育園との交流や地域の恒例の行事に参加している。敬老のお祝いでは、毎年、阿蘇市長からのお祝いのメッセージが届き喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療受けられており、体調に変わりがあれば主治医へ報告し指示受けもできる。ご家族の要望で入居前から受診されていた医療機関を受診することもある。	本人・家族の了承のもと全員が協力医療機関より2週間毎の訪問診療としている。ユニット毎の受診として毎週の医師の訪問は、気になる事などがあればその都度受診や相談ができ、速やかな対応に繋がっている。専門医についてはオンライン受診や訪問診療、職員同行による受診結果を家族へ伝えている。口腔ケアは毎食後個々に応じた用品を使用し実施し、治療が必要な場合は訪問で対応しており、職員は指導や助言を受け日頃のケアに反映させている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関りの中での変化やわずかな事でも看護師へ報告を行い、情報を共有している。継続的に観察が必要な時は、病院受診を検討したり適切な対応を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には個別のケアや関わり方などの特記事項も伝えることで、本人が安心して治療を受けられるように努めている。入院後は相談員を通して情報収集し早期に退院できるよう働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を主治医や家族等と話し合いをしながら見極め、本人の苦痛を取り除くように努めている。安楽な終末期を迎えられるようチームワークで取り組んでいる。	入居時にホームの方針をもとに看取り支援への対応ができる事を伝え、事前指定書により要望などを確認している。その時点では家族の意向は様々として捉え、状況変化時には再度本人や家族に聞き取りしている。「最期をホームで迎えて欲しい」との要望から今年度お一人の最終の支援が行われている。看取りを行うタイミングでその方に対してのマニュアルを作成し支援に当たっている。支援後は本人を偲びながら職員の声や時間やアンケートにより職員の思いを収集している。	管理者は「入居者の最期を支援するという事は、不安や悲しみもあったと察するが、その人らしい人生を全うできるサポートが仕事であり、職員も達成感を持てたのではないかと語っている。家族や医師、職員が心をつなぐ支援されたことが伝わってくる。今後も日頃の関わりを大切にその人らしい人生のサポートに努めていかれる事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを使用した急変時の対応などの研修会に参加し、スタッフの知識や実践力を身につけて適切な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練、非常食訓練の実施、発電機使用の確認など日頃から備えている。運営推進会議では、地域の方もAEDを利用できるように伝えたり、地域、行政との協力関係を築いている。	年2回避難訓練や非常食訓練を実施しており、消防署の参加が得られる場合は夜間想定で行われている。訓練時入居者のベルの音への反応に配慮しながら安全な場所へ誘導する等日頃から防災への意識を持つことの重要性を共有している。発電機は訓練後や台風接近前に確認することで有事に備えるとともに、リストをもとに3日分の備蓄を確保している。AEDの使用方法を学んだ様子はビデオに撮っており、全職員が必要な時に確認し対応ができるようにしている。	来年度から地域の方々の参加を得た訓練が予定されており、家族へも参加協力を呼びかけられることを期待したい。また、居室入り口の暖簾については防火の面から見直しが必要と思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何事にも了承を得ることを基本とし、人格を尊重した対応に努めている。特に排泄ケアをする際にはプライドを傷つけないように配慮したり、入浴の際には希望に応じて同性介助行っている。	勉強会や行動指針を共有し、入居者の尊厳やプライバシーの確保に努めている。管理者は入居者とは身近な存在であっても、ため口や馴れ合いの言葉使いにならないなど日頃から意識を持つように伝えている。身だしなみやおしゃれについても、家族の協力も得ながら取り組み、化粧品が不足すると購入を希望される方、髪染めへの要望には、パッチテスト後にホームで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人へ尋ねることを基本とし、答えやすいような問いかけをするなど、思いや希望を表しやすいよう心掛けている。日常生活の中で選択する機会を設けて楽しみに繋がるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内の日課を基本とし生活リズムが整うように支援しながら、個々のペースや希望、体調に配慮しながらその人らしく過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望に沿って整髪(髪染め)や衣類の着用など行っている。衣類について要望があった際には、ご家族へ連絡し持参していただくこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて家事仕事を役割分担し、利用者と職員が協力しながら行っている。食事やおやつで選択する機会を設け、楽しみとなっている。	現在ご飯のみホームで炊き、主菜、副菜などは施設内調理から調理済みの料理に変更し、おやつは手作りの日も設けている。食形態は粥や二度炊き、キザミなど嚥下力に応じて提供している。ホーム喫茶「由紀の里カフェ」では、選択メニュー(ようかん・饅頭・団子など)で対応し、入居者の楽しみに繋げている。普段の調理に入居者が関わる機会を持たれていないが、つぎ分けや台拭きなどできることや希望されることに取り組まれている。	職員の聞き取りによる嗜好調査や、同じものを摂っている夜勤者などの意見を生かしながら、入居者に喜ばれる食事支援の提供に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を観察しながら、栄養士、看護師と連携し食事内容の見直しを行い美味しく食事が摂れるように支援している。夜間、水筒を準備したり嗜好品の飲み物の提供を行い水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケア用品を使用し、口腔ケア実施。訪問歯科診療時に口腔ケアについて指導・助言を受け、適切な口腔ケアを行うことで、清潔保持、口腔内のトラブル防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ使用を基本とし、個々に応じた排泄支援を行っている。排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握し、失禁なくトイレでの排泄ができるよう努めている。	日中は基本的にトイレでの排泄を支援している。リハビリパンツに薄型の尿取りの併用や布パンツで過ごされる方、昼夜を通してオムツの方など適切な用品が使用されている。オムツ交換は本人、職員にも負担が無いよう、2名での対応も行われている。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、その都度洗浄し、使用しない時間帯はカバーを掛ける等プライバシーに配慮している。個々の排泄支援で気になる事、対応策、意見などがあれば、気づきノート(業務内容)に記入し、対応策を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに、便の量や性状、内服との兼ね合いを把握し、適度な運動、水分補給、下剤の調整を行い排泄習慣の確立に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ち良く安全に入浴ができるよう身体状況にあった環境で入浴の支援を行っている。又、同性介助や好まれる時間などにも配慮し入浴が楽しみとなるように努めている。	基本的に週2回の入浴を午前・午後で、身体状況に応じて個浴、機械浴で支援し、湯温も好みに応じて対応している。中には拒否をされる方もおられるが、無理強いしないことを職員間で共有し、声掛けや職員を交代するなど工夫しながら清潔保持に努めている。季節の柚子湯や家族から差し入れされた入浴剤も活用され変わり湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホーム内の日課を基本とし要望も取り入れながら生活リズムが整えられるよう支援している。自宅で愛用されていた枕や毛布など使用することで安心感にも繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、副作用など常に文書で確認できるようにしており、新しく処方があれば申し送りし観察するように努めている。又、主治医、かかりつけ薬局へ随時相談できる体制ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やこれまで経験してきたことを活かして役割を持つことで意欲の向上に繋がられるように支援している。食べることを楽しみとしていただけるよう嗜好品の提供や選択の機会を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら季節を感じることを目的とした外出行事を計画している。天気の良い日には職員と散歩に行かれることもある。又、個別の外出支援もしている。	春には少人数に分けて全入居者で地域の神社へ花見に出かけている。今回窓越しの見学となったどんどこや、子ども神輿の訪問は入居者の笑顔を引き出し、「家に帰りたい」の要望から、職員が付き添い自宅の様子を見に帰るなど可能な限り支援している。また、ユーチューブを使って好きな山々を見てもらう等、気分を味わってもらう等の取組も聞かれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じてお金を所持されており、自己管理が難しい方については、自室で鍵付きの家具にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持されている方が数名おられ、いつでも連絡がとれるように支援している。タブレットでご家族へ写真を送り様子を伝えることもある。又、毎年、年賀状を担当職員と一緒に作成し郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるような植物や飾り物を飾り、明るく過ごしやすい空間づくりに努めている。トイレでの排泄物品などに使わない人への配慮も行い、気持ち良く過ごしていただけるように努めている。	共用空間は掃除や換気を徹底し、特に臭気などがないよう配慮している。リビングは食事やレクリエーションなどの活動の場として、過ごしやすさに配慮している。毎日ユーチューブを活用したラジオ体操や入居者に「何をして楽しみたいか」などを尋ねながら取り組み、席の配置は入居者の相性などを考慮して決定している。ホーム内には季節に応じた作品を掲示したり、職員が持ち寄った草花を生ける入居者もおられるようである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の思いや言葉に耳を傾け、関係性や相性などに配慮し孤立することがないように安心して過ごせる生活空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活する場所が変わっても居心地よく安心して過ごせるよう、ご家族の協力も得ながら自宅での愛用の物や家具など取り入れている。	入居時に持ち込みの品について家族へ協力を依頼している。特に自宅で使用していたもの(タンスや衣類など)はその方の安心される温もりや匂いがあることを伝えている。テレビは半数程の方の部屋に置かれているが、夜のみ見られたり殆ど見ない方もおられるようである。遺影を持ち込み安心される方や逆に不安になる方には家族と相談し持ち帰ってもらう等々に応じて対応している。身体状況に応じた物品の配置や個人で新聞を取っている方には、職員手作りの赤いポストが居室入口に置かれている。個々の状態により居室やユニットの移動を行う際は、双方の家族の了承を得て行うことを入居時に説明している。	現在も窓越し面会を継続しており、家族によってはタブレットなどで居室の様子を伝えている。今後も家族の安心につながるよう、気になる点や知りたいことなどを聞き、個々に応じて対応されることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所手すりを設置、バリアフリーとなっており安全に移動でき、自立と安全性に配慮した環境となっている。状態によっては福祉用具を活用したり、一人でトイレへ行けるよう表示を工夫し自立を支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391400068		
法人名	社会福祉法人 順和会		
事業所名	グループホーム ひのおか由紀の里 根子岳ユニット		
所在地	熊本県阿蘇市赤水無田ノ上1894番地1		
自己評価作成日	令和5年12月26日	評価結果市町村受理日	令和6年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然が豊かな立地にあり、山や田畑の様子が眺められ四季を感じることができる環境です。感染予防にて十分な地域交流ができない中、ホーム内での季節行事、日々の生活の充実を通し楽しみのある生活、本人の出来る力を活かした支援の提供を行っております。入居された方が重度化しても、慣れ親しんだ地域の中で最期まで安心して暮らすことができるよう看取り介護も行ってまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビング内に理念を掲示し、生活支援の指針とし実践に繋げている。ケアの中で迷った時の羅針盤としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設以来、毎年恒例となっている地域行事などもあり、新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら継続し地域の方々との関係づくりに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の資料や広報誌により取り組みや活動、役割についての説明を行うことや、実習生の受け入れ体制を整えている。令和5年8月より、認知症伴走型支援事業を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症の県内のリスクレベルを考慮しながら運営推進会議を開催している。事業所としての現況や活動報告を中心に意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者に関する各制度担当者への相談、連携などを通して情報交換や連携が図れるように心掛けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に行動指針として明記し掲示している。勉強会を通して理解を深め身体拘束をしないケアの実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待となる行為を行動指針に明記し事業所内に掲示し周知徹底している。勉強会も行い理解を深め、法令で定めることだけでなく、不快に感じる言葉かけや態度などもないように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が生活していく上で、必要性に応じて家族と話し合い、安心して生活できるよう支援している。成年後見制度利用者が3名おられ日頃の状況などについて、随時、報告、相談など行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に資料を用いて事業所について事前説明を行い理解し納得していただけた上で契約に至っている。契約後も随時相談は受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各担当を配置することで利用者や家族などの意見や要望を細かく把握し、他の職員へ申し送りを行い周知対応している。計画書見直しの際には、意見や要望を自由に表せる機会として反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	些細なことも意見や提案を前もってつくり、月1回の会議時に話し合いを行っている。職員の意見や提案を受け入れ、まずはやってみることを基本とし、職員の意欲を高められるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の経験や能力、得意な分野を活かし担当として役割を持つことで仕事への意欲向上にも繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	互いに声を掛け合い、知識や経験をもとに、意見交換など行っている。事業所内でも研修会や勉強会を実施し、知識を得ることでスキルアップやケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に地区の連絡会の研修会やオンラインにて法人内の会議に参加、意見交換を行い連携を図っている。法人内の他部署とは日常的に連絡をとり相談やアドバイスをすることもあり協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族と面談し、心身の状態や要望などを聞き把握することで安心して入居していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族から不安や要望など、本人から得られない情報を十分に聞くと共に、事業所の見学や役割について説明、まずは知っていただくことで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や入居待ちの方々の支援として、現在の状態やサービス利用状況などから必要とされるサービスを見極め、説明やアドバイスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、個々のできる力が発揮できるように支援している。家事仕事など役割分担し職員と協力して行っている。人生の上では先輩であり、アドバイスや助言をいただくこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止にて、面会の制限などあるため、普段から何かあれば相談や連絡し情報を共有することで共に支える関係づくりに努めている。本人とご家族の絆を大事にすることを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止対策をとりながら地域の行事であるどんどやに毎年参加している。入居後も、昔からの友人や知人関係の方もおられ関係性を大事にしている。時には知人の面会もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関りは大事にしており、利用者からの要望や性格、相性なども考慮しながら支えあえる関係が構築できるように支援している。ユニット間を自由に行き来し交流もされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所や医療機関への転居及び入院になっても新たな環境での生活が円滑に行えるように、その方の情報を共有することで連携支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書作成時には、必ず本人の意向など確認し、日常生活の中での些細なひと言も暮らしへ反映できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入居以前に利用していたサービス事業所や医療機関からの情報をふまえて、これまでの暮らしを把握し、入居前の暮らしが継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報をふまえて、ケース記録、各種日誌などを活用し情報を共有化することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意見、意向を伺い、計画書に反映させている。また、ケア会議において、担当職員、計画作成担当者、その他の職員と原案をもとに意見交換し作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画書にもとづいて、日々の様子、支援経過などを個別に記録し情報を共有することで計画書の見直しに活かしている。又、ケアの質の向上に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各制度の申請や手続き、後見人との連携など行っている。要望に応じた個別での外出支援なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止対策をとりながら地元の保育園との交流や地域の恒例の行事に参加している。敬老のお祝いでは、毎年、阿蘇市長からのお祝いのメッセージが届き喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療受けられており、体調に変わりがあれば主治医へ報告し指示受けもできる。ご家族の要望で入居前から受診されていた医療機関を受診することもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関りの中での変化やわずかな事でも看護師へ報告を行い、情報を共有している。継続的に観察が必要な時は、病院受診を検討したり適切な対応を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には個別のケアや関わり方などの特記事項も伝えることで、本人が安心して治療を受けられるように努めている。入院後は相談員を通して情報収集し早期に退院できるよう働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を主治医や家族等と話し合いをしながら見極め、本人の苦痛を取り除くように努めている。安楽な終末期を迎えられるようチームワークで取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを使用した急変時の対応などの研修会に参加し、スタッフの知識や実践力を身につけて適切な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練、非常食訓練の実施、発電機使用の確認など日頃から備えている。運営推進会議では、地域の方もAEDを利用できるように伝えたり、地域、行政との協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何事にも了承を得ることを基本とし、人格を尊重した対応に努めている。特に排泄ケアをする際にはプライドを傷つけないように配慮したり、入浴の際には希望に応じて同性介助行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人へ尋ねることを基本とし、答えやすいような問いかけをするなど、思いや希望を表しやすいよう心掛けている。日常生活の中で選択する機会を設けて楽しみに繋がるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内の日課を基本とし生活リズムが整うように支援しながら、個々のペースや希望、体調に配慮しながらその人らしく過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望に沿って整髪(髪染め)や衣類の着用など行っている。衣類について要望があった際には、ご家族へ連絡し持参していただくこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて家事仕事を役割分担し、利用者と職員が協力しながら行っている。食事やおやつで選択する機会を設け、楽しみとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を観察しながら、栄養士、看護師と連携し食事内容の見直しを行い美味しく食事が摂れるように支援している。夜間、水筒を準備したり嗜好品の飲み物の提供を行い水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケア用品を使用し、口腔ケア実施。訪問歯科診療時に口腔ケアについて指導・助言を受け、適切な口腔ケアを行うことで、清潔保持、口腔内のトラブル防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ使用を基本とし、個々に応じた排泄支援を行っている。排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握し、失禁なくトイレでの排泄ができるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに、便の量や性状、内服との兼ね合いを把握し、適度な運動、水分補給、下剤の調整を行い排泄習慣の確立に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気持ち良く安全に入浴ができるよう身体状況にあった環境で入浴の支援を行っている。又、同性介助や好まれる時間などにも配慮し入浴が楽しみとなるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホーム内の日課を基本とし要望も取り入れながら生活リズムが整えられるよう支援している。自宅で愛用されていた枕や毛布など使用することで安心感にも繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、副作用など常に文書で確認できるようにしており、新しく処方があれば申し送りし観察するように努めている。又、主治医、かかりつけ薬局へ随時相談できる体制ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やこれまで経験してきたことを活かして役割を持つことで意欲の向上に繋がれるように支援している。食べることを楽しみとしていただけるよう嗜好品の提供や選択の機会を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら季節を感じることを目的とした外出行事を計画している。天気の良い日には職員と散歩に行かれることもある。又、個別の外出支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じてお金を所持されており、自己管理が難しい方については、自室で鍵付きの家具にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持されている方が数名おられ、いつでも連絡がとれるように支援している。タブレットでご家族へ写真を送り様子を伝えることもある。又、毎年、年賀状を担当職員と一緒に作成し郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるような植物や飾り物を飾り、明るく過ごしやすい空間づくりに努めている。トイレでの排泄物品など使わない人への配慮も行い、気持ち良く過ごしていただけるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の思いや言葉に耳を傾け、関係性や相性などに配慮し孤立することがないように安心して過ごせる生活空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活する場所が変わっても居心地よく安心して過ごせるよう、ご家族の協力も得ながら自宅での愛用の物や家具など取り入れている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所手すりを設置、バリアフリーとなっており安全に移動でき、自立と安全性に配慮した環境となっている。状態によっては福祉用具を活用したり、一人でトイレへ行けるよう表示を工夫し自立を支援している。		

